

65 盲ろう者の理療就労に関する研究

—特別支援学校・養成施設のアンケート調査から—

理療教育・就労支援部理療教育課 高橋忠庸、浮田正貴、伊藤和之

1. 背景と目的

日本の盲ろう者の人口は、平成24年の実態調査により、約1万4千人とされ、そのうち、労働年齢である18歳以上65歳未満の割合は2490名（17.8%）である。盲ろう者の就労について、平成16年の実態調査では、過去の職業で理療師18%、会社員43%、現在の職業として理療師11%、会社員4%であった。盲ろうの状態では、ほとんどが就労喪失する中、理療には仕事ができる要件があると考えられる。

そこで、本研究は、盲ろう者の理療師免許取得のための学習支援、理療就労の現状に関して、理療教育課程を設置している特別支援学校などへアンケート調査を行い、その実態を把握することを目的とした。

2. 方法

①調査対象：全国の理療教育課程を設置している特別支援学校・養成施設65校

②期間：平成28年6月～8月

③調査方法：対象となる特別支援学校・養成施設の担当教員に対し、盲ろう者の実態について自記式質問紙法を実施した。調査票は、全体調査、在学生の個別調査・卒業生の個別調査の3種類の調査票を作成した(表1)。

3. 結果

対象校65校中、57校から回答が得られた（回収率87.7%）。盲ろう者が卒業した学校は27校（47.4%）、在学している学生は10名、卒業生は76名であった。ここでは、卒業生の調査を中心に報告する。

卒業生の調査では、有効回答数60名、卒業年は平成7年から平成27年の間であった。性別は男性44名、女性16名で、年代は30代、20代の順に多く、1、2級の重度障害を有する者は42名であった(表2)。また、盲ろうの障害程度分類では、弱視難聴41名、全盲難聴15名、弱視ろう4名、全盲ろうは0名であった。

理療免許取得の状況では、あま指師免許取得は51名、理療師免許取得は28名であり、理療免許取得にいたらなかった者は、弱視ろう2名、全盲難聴4名、弱視難聴3名であった(表3)。

理療就労の状況では、51名中45名が就労に結びつき、あま指師の就労は32名、理療師の就労が13名と、あま指師免許があれば高い割合で就労できていた(表4)。

4. 考察

約半数の学校が盲ろう者を受け入れ、そのうち、重度障害の割合が高いにも関わらず88%が免許取得しており、個々に合わせた効果的な支援が実施されていることが推察された。また、免許取得者は、45名が就労している中、あま指就労では、弱視ろう100%、全盲難聴91%と障害程度に関わらず高い割合を占めており、あま指師免許取得する支援方法が理療就労する大きな要因と考えられた。今後、学習支援の内容や方法について分析を行う予定である。

表1 調査項目

① 体調査(実態調査A)7項目	
1	盲ろう者の入学実態
2	入学に関する教育相談
3	盲ろう者の卒業後の相談
4	受験を希望した時の対応
5	就労している盲ろう者の実態
6	盲ろう者の就労するための要件
7	教育上の配慮や工夫、就労支援の必要事項
②在学生の個別調査(実態調査B)5項目	
1	基本属性(性別、年齢、障害の状況など)
2	コミュニケーション手段の項目
	情報の受信手段(読む手段、②聴く手段)
	情報の発信手段(①書く手段、②話す手段)
3	パソコン活用の状況
4	授業における個別的配慮の項目
	講義での配慮や工夫
	実技実習での配慮や工夫
5	進路支援の状況
③卒業生の個別調査(実態調査C)8項目	
1	基本属性(性別、年齢、障害の状況など)
2	コミュニケーション手段の項目
	情報の受信手段(読む手段、②聴く手段)
	情報の発信手段(①書く手段、②話す手段)
3	パソコン活用の状況
4	授業における個別的配慮の項目
	講義での配慮や工夫
	実技実習での配慮や工夫
5	理療師免許を取得した方の進路
	理療で就労した場合の職種
	理療以外で就労した場合の職種
6	理療師免許を取得しなかった方の進路
7	就労支援における他機関との連携
8	就労後のフォローアップ

表2 基本属性(人)

性別		年代		身体障害者手帳	
男性	44	20代	17	視覚	54
女性	16	30代	21	聴覚	33
		40代	16	重度障害	42
		50代	6		
		50代	6		

表3 障害分類と理療免許取得状況(人)

分類		あま指師	理療師 (あはき師)	免許無
弱視ろう	4	2	0	2
全盲難聴	15	11	4	4
弱視難聴	41	38	24	3
合計	60	51	28	9

表4 障害分類理と療就労(人)

分類	免許取得	あま指就労	あ・は・き 就労
弱視ろう	2	2	0
全盲難聴	11	10	1
弱視難聴	32	20	12
合計	45	32	13